

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	両大血管右室起始症における conotruncal criss-cross の CT による評価と外科的病型分類に関する後向き観察研究
研究責任者	心臓血管外科 小出昌秋
研究実施体制	単施設研究
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2027 年 3 月 31 日
対象者	当院にて 1998 年以降手術を行った DORV(肺動脈閉鎖、内臓錯位症候群を除く)のうち、造影 CT 検査を行っており、画像上円錐部中隔と心室中隔の形態が鮮明に観察できる 30 名の患者さんを対象とします。
研究の意義・目的	先天性心疾患のひとつである両大血管右室起始症は、解剖学的病型が多岐に渡りますが、外科的な修復術式を検討する上で、外科的病型分類を正しく行うことが極めて重要です。歴史的に、心臓発生理論に基づく Conotruncal Criss-cross 理論は、両大血管右室起始の病型の理解を助ける重要な理論と言われています。しかし、その概念の理解は簡単ではありません。今回、Conotruncal Criss-cross 理論による病型分類を、CT 画像の計測から行うことで、Conotruncal Criss-cross 理論の理解を助けるとともに、術前診断を正確に行うことを試みました。この新たな試みは、本疾患の手術を行う外科医の術式選択の一助となる可能性があります。
研究の方法	診療録から後方視的に、臨床データ、CT 画像データ、心エコーデータを収集し、CT 画像を 3D 画像解析ソフトで精査し、その結果を解析します。画像データは電子カルテの範囲で解析を行いますが、一部の画像データは匿名化して状態で学術的な発表に用います。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 心臓血管外科 (氏名) 小出昌秋 TEL:053-474-2222(代表) 心臓血管外科外来 9:00～17:00 平日